

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

再意見提出者	株式会社福岡放送
--------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化、研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 800MHz帯FPUを弊社では活用しており一例として毎年博多のお祭り“博多祇園山笠”の生中継番組にて使用している。一般には経験できる事のない山笠の“台上がり（だしの上に乗り指揮する人物）”から見た目線のHD映像を800MHz帯FPUにより伝送し地域住民や視聴者などに好評を得ている。これはビル・道路標識・歩道橋・看板など電波的な障害物が多数存在する博多の町の谷間を縫って勇壮にかけ走る山笠からの“かき手（山笠を担ぐ人）”の模様を、約4Kmに亘り800MHz帯FPUで生伝送し映像を繋ぐことで、途切れる事のない表現が可能となっている。このような見通し外の移動伝送は他のマイクロ波帯では実現は困難であり、800MHz帯FPUの周波数の持つ伝送特性ならではの生中継番組である。 ・ 上記の他に弊社では、毎日の情報生番組などで船上・列車からの移動中継やホークスの優勝パレード（繁華街）など数々の中継もこの800MHz帯FPUを使用し行っている。これらの中継番組は、800MHz帯の使用が必要不可欠であり、地域住民に様々な情報や娯楽を視聴者へ提供し続けている。 <p>《参考：中継使用事例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎島原学生駅伝生中継 ・ 関門海峡の船上からの生中継 ・ 遊園地の移動遊具からの生中継 ・ 博多湾の船上からの生中継 ・ 柳川の“どんこ舟”川下りの生中継 ・ 列車車中からの生中継 ・ 移動中の“ミステリー旅行バス”より生中継 ・ 長崎おくんち祭りでの移動しながらの生中継

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホークス優勝パレード生中継など ・特定ラジオマイクは、現在の番組制作や、演劇、コンサートなどを成立させるためには不可欠な高品質で安定した音声伝送手段である。有線マイクロフォンや回折性のない周波数によるラジオマイクでは不可能な演出を可能としており、無くてはならない存在である。 <p>今後も800MHz帯FPUやラジオマイクをはじめ国民から預かる電波の有益な運用に心がけ、国民（視聴者）へ安全・安心のための緊急情報の伝達並びに、社会貢献のための番組制作などへ活かして行く所存である。</p>
--	--

No	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
	800MHzFPUを他の周波数(2GHz以上)へ移行すべき、との意見が何件かあります	<ul style="list-style-type: none"> ・1GHzを超える周波数帯においては、800MHz帯と同様の見通し外伝送を可能とする技術開発・実用化が必要であるが、物理的な電波伝搬特性に依存するものであり、目途が立っていない。 ・車や列車、船舶などの移動体から中継を行う場合、2GHz帯のFPUでは歩道橋や橋梁、街路樹、道路標識など電波をさえぎるものが多く、映像が頻繁に切れてしまい、このような中継番組では視聴者にストレスを与えてしまい、高品質の番組を見慣れた視聴者に受け容れられない。 ・市街地近郊に空港がある福岡では、移動中継を行なう場合、移動体よりヘリコプターにFPUでアップリンクを行なうヘリスター方式が考えられるが、市街地が福岡空港の航空交通管制圏に含まれるため、旅客機の離着陸時におけるヘリコプターへの飛行制限が発生し、ヘリスターによる映像伝送に、地域や時間的な制約が発生する。このため意図した場所からの伝送に制限が発生し自由な取材活動ができない。市街地における映像伝送は見通し外伝送が可能な800MHz帯FPUを使用せざるを得ない。 ・衛星を使用した移動中継は、衛星電波の特性上、建築物や看板、電線などの反射を受け他の衛星電波(偏波面の裏チャンネル)へ妨害を与える。また市街地においてはビルなどで電波が遮蔽されるため事実上使用は不可能である。
	TV帯を更なる圧縮(再リパック)せよ、との意見があります	<ul style="list-style-type: none"> ・地上デジタル放送のチャンネルプランは全国の放送事業者が隣接地域と協議し綿密な作業のもと決定したもので、その連鎖性を考慮すると、削減は極めて困難である。 ・2011年7月完全デジタル移行後もデジタル混信や新たな難視対策として、デジタル中継局の置局が検討されており、更なる空きチャンネルの確保が必要に

		<p>なってくるため、TV 帯周波数事情は決して余裕のあるものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に 5 県が隣接する九州有明地区は、韓国波や、遠距離異常伝搬による同一チャンネル混信を考慮しながらチャンネルを見出してきた経緯があり、地上デジタル放送に完全移行したあとも、逼迫した周波数事情は変わらない。 ・韓国波による同一チャンネル混信妨害については、日本側でチャンネル変更をしても再度韓国側で変更される可能性もあり、チャンネルの見出しに苦慮している。 ・800MHz 帯 FPU を TV 帯のホワイトスペースに移行すべきという意見もあるが、デジタル中継局は全国で 1 万局以上置局されており、中継の移動範囲が広域になる場合、その範囲に到来するすべてのチャンネルを考慮してホワイトスペースのチャンネルを確保することは極めて困難である。
--	--	--